

## 国際社会学部

# 加藤 美帆

Miho KATO

現代世界論コース

教育社会学・教育学



## 教育社会学とは

「なぜ学校に行くのか」に疑問をもったことが一度はあるのではないのでしょうか。そういう疑問をもったことがない場合でも、自分を取りまいている“教育”なるものを改めて深く掘り下げていくと、教育が社会構造と深く関わっていることに気づくと思います。教育社会学は、社会学の理論や方法論をもちいて、教育—学校だけでなく、子どもや家族なども含み—を分析していく学問なので、身近な問題意識や興味を社会学の理論・方法論で分析するのが教育社会学の面白いところです。

教育社会学の入門書は数多く出版されており、教育格差やジェンダーと教育などの具体的な課題を扱っている読みやすい本が多いです。まずはどれか一冊手に取って読んでみてくれると良いと思います。

## 研究紹介

これまで不登校、長期欠席といった学校に行かない現象を通じて、学校や教育が社会でどのような意味をもってきたのかを探る研究を中心にしてきました。近代・後期近代社会と家族、ジェンダーと教育といった領域にも関心をもっています。

## 担当授業

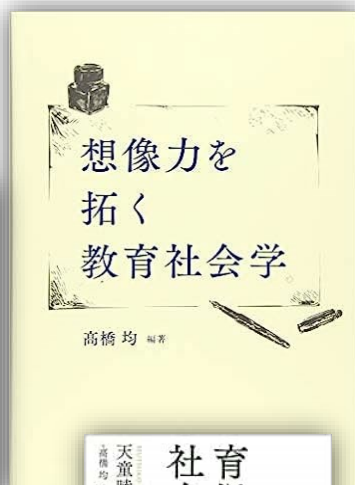
- 教育社会学1  
—子どもと家族の社会学
- 教育社会学2  
—教育問題の社会学
- 教育基礎論1
- 教師論
- 教育社会学専門演習
- 卒業研究演習

## 関連する分野

- 社会学
- 教育学
- 家族社会学

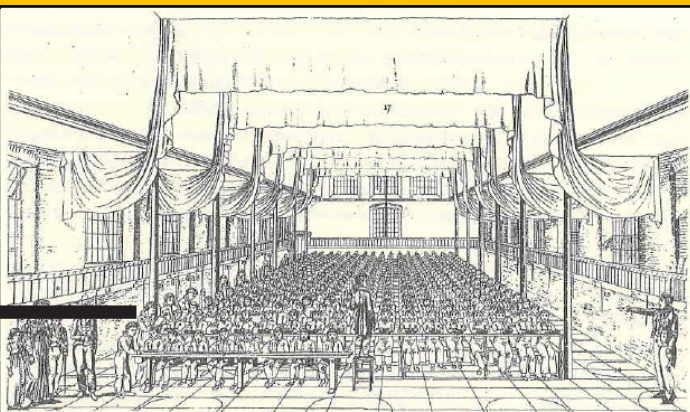
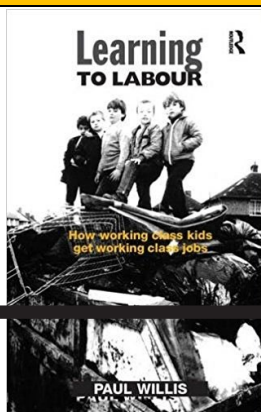
## 出版物

- 不登校のポリティクス
  - 想像力を拓く教育社会学
  - 育児言説の社会学
  - 知識伝達の構造
  - 育児戦略の社会学
- 翻訳
- 教育の危機
  - 教育社会学



# 国際社会学部

## 教育社会学 ゼミ



### どのようなゼミか

教育社会学は簡単にいうと、「教育」(学校、家族、子ども、若者、ジェンダーetc…)を社会学の理論・方法論で分析する学問領域です。「子ども」「家族」「若者」は、どちらかといえば社会の周縁に位置づけられてきました。それらを分析し、様々な角度から批判的に検討することから、日常に埋め込まれた社会の矛盾や、政治性、権力関係に気づくはずです。

ゼミでは、それぞれの関心のあるテーマを掘り下げて卒業論文につなげられるように、3年次の春学期は共通テキストの講読、秋学期から各自でテーマを決めて研究報告をしていきます。

最近のゼミの学生の関心は、教育格差やジェンダー、子どもの貧困、若者の就労、大学入試改革など、多岐にわたっています。また、専攻地域の地域研究を教育分野で取り組む学生もいます。教育、子ども、家族といった身近な事象を対象にする場合、自分の経験を枠組みにしていまいがちですが、自らの経験からのみ物事を判断するのではなく、批判的考察を行うためには、社会学的想像力が必要です。漠然とした教育への関心だけでなく、しっかりした知識と枠組みをもって教育を考えるため、多くの文献を読み視野を広げていって欲しいと思います。

### 卒論

- 貧困を抱える母子家庭への支援とその課題
- 男女別学をめぐる議論—埼玉県立別学高校の共学化論争を事例に
- イギリスの移民児童への教育政策
- 若年女性間で摂食障害者が増加する現代社会の特徴の考察
- 子どもの貧困解決におけるスクールソーシャルワーカー活用の課題
- バングラデシュにおける中等教育普及と社会の持続的な発展に向けた課題
- 現代日本社会における選抜構造の変化—大学入試と能力観の関係から

### おススメの本

- テス・リッジ 2002=2010『子どもの貧困と社会的排除』桜井書店
- ガート・ビースタ, 2010=2016『よい教育とは何か—倫理・政治・民主主義』白澤社
- H.ローダー・P.ブラウン他編 2006=2012『グローバル化・社会変動と教育』1, 2東京大学出版会

